

がん医療フォーラム 香川 2018

「がんになっても安心して家で暮らせる社会の構築」をめざして、さまざまな取り組みが始まっています。香川県内の一般県民と、中国・四国地域の医療・介護・福祉関係者が一堂に会し、がんになっても幸せに暮らすために患者さんにご家族に必要な医療・福祉に関する情報の共有と自律的な意思決定のあり方について考えます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

がんになっても幸せに暮らす
ちゃんと決めまい自分のこと



開催
日程

2018年 **3月3日(土)**
13:00-16:00
(開場12:30)

会場

かがわ国際会議場

(香川県高松市サンポート2-1
高松シンボルタワー タワー棟6階)

対象

- 中国・四国地域の医療・介護・福祉関係者
- がんの患者さんとそのご家族、がん経験者(がんサバイバー)
- 在宅での療養支援について関心のある方
- 行政担当者 など

参加
方法

事前申し込みが必要
FAX、ウェブフォームまたははがきにてお申し込みください。
申し込み方法の詳細は裏面を参照してください。

定員

250名 定員を超過した場合、申込期限前でも
受付を締め切らせていただく場合があります。

参加費無料 **要事前予約**

プログラム

総合司会・進行 中條 浩介 (香川大学医学部附属病院緩和ケアセンター副センター長)

開会あいさつ 久米川 啓 (香川県医師会長)

第1部 基調講演「がん患者さんが住み慣れた場所で過ごすために」

渡邊 清高 (帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授)

「がんになっても安心して暮らせる情報づくりと地域づくり」

辻 晃仁 (香川大学医学部臨床腫瘍学講座 教授)

「がんに人生を台無しにされないための大事なお話 -Advance Care Planning-」

第2部 フォーラム「がんになっても幸せに暮らすための準備」

モデレーター 渡邊清高、辻 晃仁
シンポジスト

吉澤 潔 (久米川病院院長)

「乳がん患者におけるACPの実際」

三宅 敬二郎 (在宅診療敬二郎クリニック院長)

「家に居る、地域で暮らすという選択」

長内 秀美 (香川県看護協会高松訪問看護ステーション所長)

「いつもの風景のなかで終えていくために
～納得した意志決定をするとき～」

ACP (Advance Care Planning) とは、今までの人生の過ごし方、生活、価値観などを共有し、患者さんの希望や生活を尊重しながら、将来の状態変化にも備えることをいいます。



ディスカッション

閉会あいさつ 横見瀬 裕保 (香川大学医学部附属病院 病院長)

共催：香川大学大学院医学系研究科、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム緩和療法医ワーキンググループ・高齢者がんワーキンググループ
香川大学医学部附属病院、第35回香川緩和ケア研究会、第19回都道府県がん診療連携拠点病院研修セミナー「在宅緩和ケアに関する研修会」
地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報 普及と活用プロジェクト

特別後援：公益財団法人正力厚生会、読売新聞社

後援：香川県、高松市、香川県医師会、香川県歯科医師会、香川県看護協会、RNC西日本放送、四国新聞社